

# LRT都市サミット広島2009 について

広島市 道路交通局 都市交通部

## 1 はじめに

次世代型路面電車システム (LRT:Light Rail Transit) の導入による新しいまちづくりを考える「LRT都市サミット広島2009」を、10月30日(金)と31日(土)の両日、広島国際会議場で開催した。

この都市サミットは、地球環境にやさしい都市づくりに向けた、公共交通振興のための都市間の連携強化を図ることを目的として、広島市が主催し、広島市で路面電車を運行している広島電鉄株の共催で今回初めて実施したものであり、開催に当たっては、国内の路面電車の運行されている都市などに呼びかけ、10都市(本市を除く)の市長、副市長の参加をいただいた。また、国土交通省をはじめ多くの関係者の方々の御協力により盛大に開催することができた。

## 2 LRT 都市サミット広島 2009 の開催概要

### (1) 主催等

- 主 催 広島市
- 共 催 広島電鉄株式会社
- 後 援 国土交通省、広島県、路面公共交通研究会、社団法人日本交通計画協会、全国路面軌道連絡協議会

### (2) 参加都市

札幌市、富山市、豊橋市、京都市、岡山市、松山市、高知市、長崎市、熊本市、鹿児島市、広島市  
(11都市)

### (3) 主なプログラム

- 10月30日(金)  
首長歓迎セレモニー、首長会議、俳優 関口知宏氏の記念講演、共同記者会見(サミット宣言)
- 10月31日(土)  
国内外のLRT化に関する事例及び制度紹介、パネルディスカッション

- (4) 参加者数(メイン会場である広島国際会議場フェニックスホールへの入場者数)  
約800人(10月30日)、約500人(10月31日)

### 3 各プログラムの結果概要

#### (1) 首長歓迎セレモニー

首長会議に先駆けて広島駅南口地下広場において、参加都市の市長、副市長をお迎えする首長歓迎セレモニーを開催した。北から札幌市の中田副市長、富山市の森市長、豊橋市の佐原市長、京都市の由木副市長、岡山市の村手副市長、松山市の稲葉副市長、高知市の安藤副市長、長崎市の田上市長、熊本市の幸山市長、鹿児島市の森市長、そして広島市の秋葉市長を含めた11名をはじめ、共催者である広島電鉄株の大田社長、国土交通省の関係者、交通事業者の代表、各県人会、報道関係者など多くの方々に参加していただいた。

広島市長の主催者挨拶、広島電鉄株社長の共催者挨拶、富山市長の参加都市挨拶の後、一行には広島電鉄株が誇る国産初の完全超低床車両「グリーンムーバーマックス」で、LRT都市サミットの会場となる広島国際会議場に近い、原爆ドーム前電停まで移動していただいた。

電車の車内は、県内外からの多くの報道関係者で一杯になり、路面電車やLRT化に関する世間の関心の高さがうかがえた。原爆ドーム前電停で下車した後、広島市長が説明を行いながら、原爆ドームや原爆の子の像、折り鶴台などを見学されるとともに、参加都市の市長、副市長が一人ずつ、広島平和都市記念碑に参拝・献花された。



#### (2) 首長会議

冒頭で国土交通省大臣官房技術審議官の松谷春敏氏から来賓挨拶をしていただき、「国土交通省では、歩いて暮らせてコンパクトな集約型のまちづくりを提唱しているところであり、人と環境に優しいLRTがまちづくりの中心的な公共交通軸になってほしい。」「今回のLRT都市サミットが、これからのLRTの新しい地平を切り拓く第一歩となることを願う。」と述べられた。

首長会議では、広島市長が議長を務め、約800名の参加者が熱心に聞き入る中で、参加11都市の市長、副市長が、各都市における路面電車・LRT化の現状やまちづくりの視点も含めた様々な取組の説明を行った。



## ● 札幌市

- 車両の前後に竹を取り付けて回転しながら新雪を吹き飛ばしていく「ササラ電車」は、札幌市の冬を彩る風景のひとつになっている。
- 都心のまちづくりの視点も踏まえながら、路面電車の活用方策を検討しているところであり、架線のいないバッテリー搭載車により、沿線と一体となった整備をするなど、魅力的な景観や空間を新たに創出するようなことも検討している。
- また、都心などには、魅力的な施設が点在しており、それらを結ぶような路線の延伸等も視野に入れて検討を行っている。

## ● 富山市

- 鉄軌道や公共交通軸を串に、駅の近くのまちを団子に例え、「串と団子」のまちづくりを構想し取組を進めている。
- その最初の取組は、JR 富山港線の LRT 化であり、1 時間間隔であったものを 15 分間隔に改めるなどにより、利用者が戻ってきた。
- 地域公共交通活性化・再生法の適用を受け、日本初の上下分離方式で設置する市内電車環状線化事業に取り組んでおり、本年 12 月末には運行を開始したいと考えている。

## ● 豊橋市

- 路面電車の利用促進のため、夏の「ビール電車」や冬の「おでんしゃ」など企画電車を実施し、成功している。
- また、去年は、市民等からの寄付金（地域公共交通活性化基金）を得て、1925 年の開業以来 82 年ぶりとなる新型車両「ほつトラム」を購入した。
- 自動車関連の会社が多く、モータリゼーションのど真ん中にある都市であるが、今後も路面電車にずっと乗ってもらうための様々な取組をしていきたいと考えている。

## ● 京都市

- 日本で最初に路面電車を導入したが、現在は、延長約 1.6km（併用軌道）と路面電車をなくしてきた都市であり、これに LRT という光を当てることができないかという取組を始めている。
- 一方、今出川通では、平成 19 年にバスの専用走行を LRT に見立てた社会実験を実施したところ、アンケートの結果からも自動車利用を抑制することの合意を得ることが難しい問題であることが明らかになっている。
- このため、まちづくり全体の中で、LRT を捉え直せないかということで「歩くまち・京都」総合交通戦略の作成を進めているところである。

## ● 岡山市

- 平成 14 年に超低床路面電車「MOMO」を導入し、現在、まちのシンボルとして運行されている。
- 本年 10 月に岡山市都市交通戦略を策定したところであり、その柱のひとつに「人と環境にやさしい LRT」を掲げている。
- JR 吉備線の LRT 化に関しては、利便性向上や環境面、沿線のイメージアップ、観光の活性化などにつながり、非常に高い効果が得られるものと期待しており、今後、実現に向かって頑張っていきたいと考えている。

## ● 松山市

- JR 松山駅前整備事業に着手したところであり、JR の高架事業に合わせて、高架下に路面電車を 900m 延長することも構想している。
- また、平成 13 年に「坊っちゃん列車」を復活し、観光客の関心も深く、観光振興にも役立っている。
- 今後とも、IC カードの導入や電停のバリアフリー化などに取り組んでいきたいと考えている。

## ● 高知市

- 高知市の土佐電気鉄道は、105 年の歴史、長い営業路線延長、短い駅間の 3 つの日本一がある。
- 路面電車が東西南北に走行できるように、はりまや橋ダイヤモンドクロッシングポイントを設置した。また、JR 高知駅の整備に合わせて、電車軌道を駅前広場へ乗り入れており、それに合わせて軌道緑化を行った。
- この街を電車が走る風景は、生活・文化の一部となっており、今後、LRT 化などによる新たな交通システム化にも取り組んでいきたいと考えている。

## ● 長崎市

- 昭和 59 年から 25 年間、100 円で運行していたものを今月から 120 円にしたが、それでも全国一安い運賃である。
- 主な観光スポットには、ほとんど電車で行くことができ、観光にとっても便利な道具になっている。
- 歩道橋でアクセスする電停については、利便性向上とバリアフリーの観点から、歩道橋を撤去し、平面的にアクセスできるように改良を進めている。

## ● 熊本市

- 昭和 30 年代には、7 系統、路線延長 25km の路面電車を運行していたが、モータリゼーションの進展等により一時は全廃の危機もあり、現在は 2 系統、12km が存続している。
- 九州新幹線の全線開業に向けて交通結節点整備や電車優先システムの導入、市電軌道を歩道側に敷設するサイドリザベーション、軌道緑化など様々な取組を進めている。
- 軌道緑化を進めるに当たっては、サポーター制度を導入し、市民からの寄付を募っている。

## ● 鹿児島市

- 平成 16 年の九州新幹線の一部開業に伴い、電停を鹿児島中央駅前広場へ引き込んだ際に軌道敷を緑化しており、アスファルトの表面温度と比べ、11.5℃の温度低下が見られた。また、市電利用者へのアンケート結果からも好意的な意見が寄せられており、こうしたことを踏まえ、本格的な軌道緑化の整備計画を策定した。
- 本市の軌道緑化の特徴は、南九州地方に無尽蔵にあるシラスをセメントで固めたシラス緑化基盤を使用している点であり、保水性や通気性に優れ、強度もある。
- 軌道緑化は、路面温度の抑制や騒音の低減、まちのうるおいの創出や景観の向上の効果があり、平成 24 年までに併用区間全線である約 8.9km の整備を完了することになっている。

## ● 広島市

- 広島の路面電車は車両数と年間輸送人員という二つの全国一位がある。明治 43 年に広島電鉄(株)

が広島電気軌道(株)として発足して以来、民間の力で維持しており、また、行政との連携が大変上手くいっている例として誇りに思っている。

- 被爆3日後に一部区間が復旧し、市民に勇気を与えた。広島復興のエネルギーの基になっており、広島人のDNAの一部になっているのではないかという気がしている。
- LRV や急行便、信用乗車方式の導入などのほか、レストラン電車やカラオケ電車など新たな取組も進めていきたい。

各都市からの内容の濃い説明により、予定時刻を大きくオーバーしたため、予定していたテーマごとの意見交換は割愛され、LRT 都市サミットの継続開催が議論された。富山市長からは「単発で終わらせるのではなく、継続開催が望ましいと考えている。次回は2年後に富山市で開催したい。」と提案され、参加都市の了解を得た。

また、首長会議の最後に、広島市長からサミット宣言の案が提案され、参加都市の了解を得た。



### ● サミット宣言のポイント

人や環境にやさしい路面電車のLRT化を中心とし、鉄道やバス、自転車との連携を図りながら、公共交通を軸とした都市構造への転換を目指し、次のことを宣言する。

- 活力と魅力のある都市づくりに向けた路面電車のLRT化によるまちづくりの推進。(LRT化によるバリアフリーの促進、路面電車が都市景観と調和するための配慮及び観光振興への活用、市民と協働した路面電車に愛着を持ってもらえる様々な取組の実施)
- 環境にやさしい路面電車のLRT化による公共交通を中心とした社会の実現。
- 全国の路面軌道事業者の運営改善、技術力の向上に必要な支援の実施。
- LRT化に向けた新しい取組の情報共有による連携した情報発信。
- 次回のLRT都市サミットは2年後に富山市で開催。

### (3) 俳優 関口知宏氏の記念講演

映画やドラマなど幅広い分野で活躍されている俳優の関口知宏氏を講師に迎えて、「旅～ふれあい～」と題した記念講演をしていただいた。

NHK番組「列島縦断 鉄道12000km 最長片道切符の旅」や海外の鉄道の旅などを通じて感じたことや、日本あるいは日本人の素晴らしさを親しみのある口調で語られた。



### (4) 共同記者会見・歓迎レセプション

首長会議及び記念講演終了後、参加都市の市長、副市長が、今後のLRT化によるまちづくりの方向性を取りまとめた「サミット宣言」に関する記者会見を行った。

報道関係者からは、「11都市で集まった力を今後どう活かしていくのか。本日の会議で一番印象に残っている成果は。LRTの利点がある中で、なおかつ民意を得られなければ、LRTは普及しないと思うが、何がカギになるか。」といった質問が寄せられた。

これに対して、「都市の力、連携によって新しい交通のシステムをさらに全国的に広げていきたい。」「首長会議により、各都市が市民とともに歩んでいる道筋や姿勢がよく分かった。都市間の連携により今後新しい方向性が出てくる可能性がある。」「都市に相応しい将来像を示し、市民に説明することがLRT化には大切。」などと答えた。

また、共同記者会見の後、鈴峯女子中・高等学校（広島電鉄株の前身となる会社が設立）の吹奏楽部による歓迎演奏をスタートに、参加都市の市長、副市長、交通事業者、関係機関の代表者相互の懇親を図るための歓迎レセプションを開催した。



#### (5) 国内外のLRT化に関する事例及び制度紹介

冒頭で国土交通省国土交通大臣政務官の三日月大造氏から来賓挨拶をしていただき、「JR西日本で鉄道員をしていた経験がある。」「超党派の新交通システム推進議員連盟の事務局長の立場からも路面電車をもっと使いやすく、また導入の下支えをするにはどうすればよいかを常々考えている。」と述べられた。

国内外のLRT化に関する事例及び制度紹介では、まず、国土交通省鉄道局財務課長の松本年弘氏から「LRTプロジェクトと地域公共交通活性化・再生法」について講演をしていただき、「これまでの荒波に耐えつつ路面電車を残して来られたので、社会全体の貴重な財産として、関係者の総力を結集して後世に残していくことが重要と認識している。」と述べられた。

次に、都市・地域整備局街路交通施設課街路事業調整官の神田昌幸氏から「戦略的な都市交通施策の実施とLRT整備事業」について講演をしていただき、路面電車を存続した都市と廃止した都市の二酸化炭素排出量の関係を示す興味深いデータの説明があった。また「LRTと都市のあり方が密接に関係することによって新しい日本の交通、あるいは都市のあり方が実現できるのではないかと考えている。」と述べられた。

#### (6) パネルディスカッション

特徴あるLRT化の取組を進めている富山市、豊橋市、鹿児島市、広島市の4都市の市長、広島電鉄株代表取締役社長の大田哲哉氏、映画美術監督の部谷京子氏、路面電車を考える会の山根政則氏といった各方面で活躍されている7名の方々に参加をしていただき、広島大学大学院教授の藤原章正氏のコーディネートによりパネルディスカッションを行った。



LRTとの関わりやその魅力をはじめ、初日のサミット宣言の内容を踏まえた、人と環境にやさし

い乗り物としてのLRT、まちの賑わいを創出するLRT、LRTを推進するための都市間の連携などをテーマとした意見交換が行われた。

各都市の市長からは特徴的なLRT化の取組が、大田哲哉氏からは、都心部での短絡ルートや信用乗車方式など広島のLRTの将来イメージがそれぞれ紹介された。また、部谷京子氏からは、幼少時代に迷子になり路面電車の線路を頼りに歩いて帰宅したエピソードから今でも路面電車に愛着を感じていることや、LRTが進んでいくことで撮影の現場として魅力的な街が増えると思うと述べられた。山根政則氏からは、日本はヨーロッパに比べ人の移動の権利（交通権）の思想が遅れていることや、路面電車の新線計画などについて熱く語っていただいた。

藤原章正氏からは、LRTは、人に近い、人間スケールの乗り物であり、“チンチン電車”から“LRT”という愛称に置き換わる日もそう遠くないだろうというまとめがあった。

## 4 関連イベント

10月30日(金)から11月1日(日)までの3日間、「LRT都市サミット広島2009」の開催に合わせて、市民や来訪者が路面電車を満喫できるよう、国内外のLRT化に関するパネル・写真展、小学生による未来の路面電車絵画展、広電電車に乗って市内を巡るスタンプラリー、路面電車まつりなど様々な関連イベントを実施した。



## 5 おわりに

LRTという言葉は、一般の方にはまだ馴染みが薄いですが、今回のサミットで多くの方に覚えていただけたのではないかと思います。

幾度もの難局を乗り越えて時代とともに成長してきた広島の路面電車は、今では全国一の利用者数と車両数を誇っている。この路面電車の街、広島で、第1回目のLRT都市サミットを開催し、人にも環境に優しい乗り物である路面電車の新たな取組について、様々な角度から訴えていく場を創り出せたことは、本当に意義深いことであった。

このサミットの開催に際しては、各方面から御支援、御協力をいただき、2日間の日程を無事終了することができた。また、市民団体にも御協力をいただき、パネル・写真展やスタンプラリーなど路面電車にちなんだイベントを開催し、路面電車・LRTを精力的にアピールできたと感じている。

今回のLRT都市サミットをきっかけとして、ここから新しいエネルギーが生まれ、全国で新たな展開が始まることにより、路面電車ひいては公共交通全体の振興につながることを期待したい。